

プラスチック問題に関する内外との連携調整

① 環境教育のさらなる推進に向けた周知の検討及び関係機関との調整

プラスチック問題に関連した環境教育について、教育関係機関のほか、企業研修を視野に入れた関係機関や事業者、消費者教育を実施する関係機関・団体との調整を行う。

表 1 環境教育のさらなる推進に向けて調整を行う関係機関・団体

調整内容	関係機関・団体・事業者（候補案）																				
<p>児童生徒、県民、県内企業に対する環境教育に関する連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県地域環境センターによる出前講座の増加、企業向け開催について ・ 教職員の研修プログラムにプラスチック問題を組み込めるかについて ・ 学校現場からのニーズ把握を目的とした聞き取り調査の実施について（以下、既存教材の例） <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="248 875 676 1440" style="width: 45%;"> <p>ワークシート① （コピーして使ってください）</p> <p>マイクロプラスチックを探してみよう</p> <p>調査をする場所：① その日の潮位 ② 砂浜上部の植物の生えているところ</p> <p>方法：① 調査でのマイクロプラスチックの採取 1: 調査を決めて、25cm 四方の枠をおく（もしくは定規で 25cm 四方の線を引く）。 2: 枠の辺の大きな石や貝殻、海藻などを取り除く。大きなプラスチックごみはビニール袋に回収する。 3: ハウチ半分くらい海水を流す。枠の中の砂を表面から 2cm くらいスコップで取り取るように取り、砂を全部/ワットに入れてかき混ぜる。 4: 置いてきたプラスチックの枠を曲線あみやあくとりですくって、細形の目録に入れる。残っているものがなくなるとまで、目録をかき出してすくい取る。 5: 目録に、採取場所や番号を記入した紙を入れて持ち帰る。</p> <p>② マイクロプラスチック調べ（鑑別、観察） 1: 採取したものをトレーに広げて、海藻や砂などの自然物と、人工物を、ピンセットでやり分けよう。 2: 細かく分類するとともに、プラスチックの種類（発泡スチロール、密閉容器、繊維状のから、レジタレット（3～5mmの半透明の丸））に分ける。 3: より分けられたプラスチックの種類と数を記録する。枠の中にある大きなごみも記録する。</p> <p>採取した枠の中にマイクロプラスチックはいくつ入っている？ そのほかにはどんなごみがあった？ 枠の中に：..... 入っている マイクロプラスチックの種類は？ そのほかのごみは？</p> </div> <div data-bbox="676 875 1086 1440" style="width: 45%;"> <p>ワークシート② （コピーして使ってください）</p> <p>海洋に漂っているごみについて</p> <p>沖縄県の海面上に漂っているごみの素材は、プラスチックと木類が大部分を占めている。平成 26 年度沖縄県海洋漂着物回収処理推進事業での毎年漂着物のモニタリング結果では、漂着物の重量（kg）と、容積（ℓ）の両方で、プラスチックが半分以上を占める結果となった。</p> <table border="1"> <caption>漂着物の重量別割合（kg）</caption> <tr><th>素材</th><th>割合</th></tr> <tr><td>水質</td><td>32.4%</td></tr> <tr><td>プラスチック</td><td>56.2%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>6.0%</td></tr> <tr><td>発泡スチロール</td><td>4.7%</td></tr> </table> <table border="1"> <caption>漂着物の容積別割合（ℓ）</caption> <tr><th>素材</th><th>割合</th></tr> <tr><td>水質</td><td>18.6%</td></tr> <tr><td>プラスチック</td><td>65.4%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>3.0%</td></tr> <tr><td>発泡スチロール</td><td>21.2%</td></tr> </table> <p>① 一次マイクロプラスチック（もともと小さいプラスチックごみ） ② 二次マイクロプラスチック（大きなプラスチックごみが小さく割けたもの）</p> <p>プラスチックと海洋</p> <p>注意：軽くて風に飛ばされやすいプラスチックごみは、海に漂ると風流によって遠くまで流れていく。沖縄の近くには漂着が散見されていて、太平洋を横断し、アメリカ大陸まで漂着する。そのため、日本から流れたプラスチックごみが、ミッドウェイ群島やハワイなどにも数多く流れ着いている。</p> </div> </div>	素材	割合	水質	32.4%	プラスチック	56.2%	その他	6.0%	発泡スチロール	4.7%	素材	割合	水質	18.6%	プラスチック	65.4%	その他	3.0%	発泡スチロール	21.2%	<p>沖縄県教育委員会 沖縄県環境再生課</p>
素材	割合																				
水質	32.4%																				
プラスチック	56.2%																				
その他	6.0%																				
発泡スチロール	4.7%																				
素材	割合																				
水質	18.6%																				
プラスチック	65.4%																				
その他	3.0%																				
発泡スチロール	21.2%																				
<p>企業内研修、業界団体が主催する研修や対策の取組に関する連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県地域環境センターによる出前講座開催の可能性について ・ 河川清掃や海浜清掃活動への参加企業との連携、参加企業数増加に向けた可能性について ・ プラスチック問題に取り組む企業による、学校への出前講座について 	<p>沖縄経済同友会 セブン-イレブン 沖縄</p>																				
<p>消費者の意識向上に向けた取組等に関する連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生分解性プラやバイオマスプラに関する正確な情報の伝達について ・ 県内の消費者教育の現状把握、環境教育に向けた留意点の整理 ・ 消費生活アドバイザー等による環境教育の実施、開催方法の検討 	<p>特定非営利活動法人消費者センター 沖縄 生活協同組合コープおきなわ</p>																				

② プラスチック問題に関する関係部局・関係機関との調整

令和3年度の第3回会議では、プラスチック対策のモデル事業として、国際通りの給水スポット設置を計画することが提案されている。給水スポット設置に向けて、関連団体への調整を進めるとともに、基金創出の可能性など、令和5年度以降も持続的な活動ができるような体制についても検討する。

表2 プラスチック問題に関する調整を行う関連団体

調整内容	団体・事業者 (候補案)
<ul style="list-style-type: none"> 給水スポット設置場所、導入台数 協力店舗・協力事業者の募集方法、参加要件 給水スポット案内アプリの活用検討 	那覇市国際通り商店街 振興組合連合会 沖縄経済同友会

また、給水スポット設置に関する先進事例に取り組む関係機関・団体・事業者へのヒアリングやインターネットでの情報収集を行う。

表3 情報収集やヒアリングを想定する先進事例(例)

取組内容	関係機関・団体・事業者 (候補案)
いつでも、どこでも「亀岡のおいしい水」プロジェクト (給水機の設置や給水スポット案内アプリの導入) <ul style="list-style-type: none"> 給水機導入のきっかけ、導入までの検討事項 利用状況、利用者からの声、設置者からの声 給水スポット案内アプリの導入について 	京都府亀岡市
「エコ修学旅行」の実施 (マイボトルや歯ブラシ等を旅行生が持参する取組) <ul style="list-style-type: none"> 「エコ修学旅行」参加校の応募状況、参加者からの声 学校独自でアイデアを出し、旅行中に取り組む「エコ・アクション+1」で寄せられたアイデアについて 	京都府京都市
事業者による無料給水機の導入 <ul style="list-style-type: none"> 導入のきっかけ、導入の時期 利用状況、お客様からの声 県内他店舗への展開について 	無印良品 (しおぎシティ店等、無料給水機導入済みの県内店舗)
リゾートホテルにおける給水機の導入 <ul style="list-style-type: none"> 利用無料のウォーターサーバー(ドリンク込み)の導入、マイボトル持参を推奨する取組のきっかけと理由 利用状況(持参率)、お客様のからの声 導入後に見えてきた課題、それに対する解決策 	星野リゾート西表島ホテル